



岩井美保子議員

赤松分校の対応は

年内に解決したい

問 (1)赤松分校の耐震、緊急避難について、地元の方々の話し合いがもたれているところだと伺っているが内容はどうか。
 (2)教育審議会の答申が12月では遅い。
 (3)体育館を仕切り授業を受けている。課題が出てきているのではないか。

その対応は。
 (4)教育委員長の政治的決断の考えはあるか。

答 (伊澤教育委員長)

(1)緊急避難ではあるけれど結果として統合に繋がっているのではないかとという危惧を強く持っておられる保護者の皆さんは赤松地

内で、学ばせたいという思いである。教育委員会の思いは本校で学ぶのが一番よい環境だと話し合いをしたところです。
 (2)(狩野実教育次長) 教育審議会の答申については、できるだけ前倒しをしながら、早いうちに結論を出せばという



体育館を仕切り授業を受ける児童

農村加工センターはどうする

課題を整理し着手したい

思いで、対応している。
 (3)6月4日から体育館での措置が始まった。今後期間が長くなれば、様々な事が想定される。現状では満足な教育環境を提供したことはならないと認識している。
 (4)(山田晋教育長) 安全の中で、学習環境も比較的整っている本校に教育委員会は固執している。赤松PTAの方や地域の方にも理解を求め努力をして、冬までという現状を放置する考えは毛頭ない。

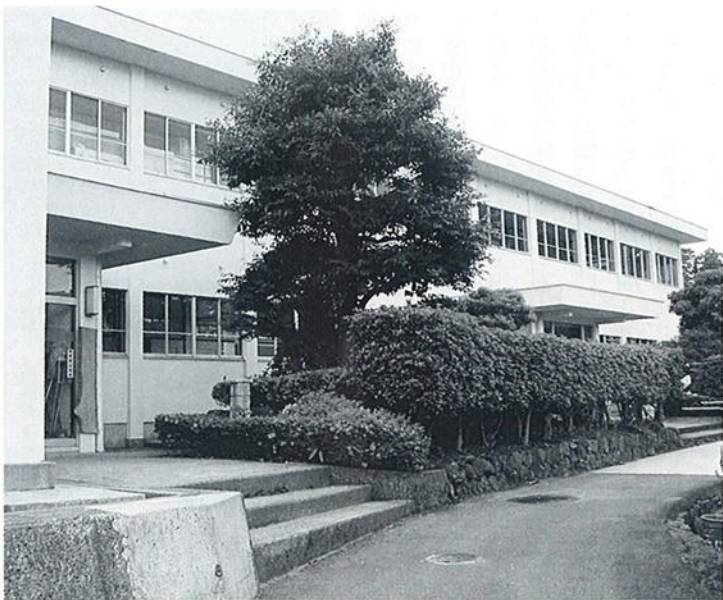
問 昨年度、農産加工センターの整備計画について全員協議会などで説明を受けたが、予算化されていないままになっている。後取り組むことに変更はないか。

答 (山口町長)

町内産農産物の高付加価値と供給力強化、加工品開発や料理メニューの磨き上げなどを図ることで「大山恵みの里づくり計画」の目標のひとつで

ある雇用・所得を増やすための核となる施設である。

地産地消の具体的な仕組みづくりが十分に煮詰まっていなかった事や立地に関して最終調整できなかったことなどにより、平成20年度の当初予算には計上しなかった。準備が整えば、国の補助金等の特定財源が確保できれば、今年中にも予算補正をし、着手していきたい。



耐震基準に満たない赤松分校